

### 編輯室の内外

秋も闌なる十月となり、朝冷暮涼を感ずる、燈火親しむべきの候なるも今や眞の非常時局である、彼の蘆溝橋事件突發以來はやくも約九旬支那に於ける戦局は擴大して全面的となり、海に、空に將た地上に着々成果を収め、内に在つては舉國一致の統後措置は愈々威力を加へ皇威益々光輝を放ち我帝國の迫力の強きを視る、だが戦線に在つて幾多の將兵が自己を抛棄し犠牲奉公の誠を竭し、無名の勇士の心骨を碎き、涙ぐましき銃後の悲劇も日々繰り返へさせることを思ふ時萬感胸に塞り筆とる指の懐きを禁じ得ないのを感じつゝ漸く本號の編輯を了した。

防空の演習に熱心従事するも悲愴極まる我將兵の上を思ふとき全く別世界の感じがあつた、之れと云ふのも精神的訓練の注意を缺いたためと視らるゝ、假令空襲の警告があつても實戦感は少しも生じない、何故カラデオの響きはサイレンの夫れと一致しない、消燈しても浪花節が講談がバイオリンがピアノが琴三味線が耳に次から次へと傳へられて来る、何處に空襲の氣分が生じ得るであらうか形は心に伴ふ、心こゝにあざれば折角の演習もピタリと來ない。

九月十三日全國の總務部長會議が内務省

で開催せられた、馬場内相は日比谷公會堂に於ての演説と同主旨の訓示を爲し國民精神總動員に關する件外十數件の指示事項注意事項が附議せられた、各地方に於ての國民精神總動員運動が形式や空騒ぎとならず眞剣に眞面目に敬虔の心構を以て行はれんことを望まざるを得ない。

コミンタン機關紙は支那を教唆して抗日戦争を徹底させるため日本との外交關係を斷絶し諸條約を廢棄し日貨をポイコツトし支那にある日本人所有の銀行、鑛山、工場其の他の財産を沒收し日本大使館、總領事館その他特別機關を閉鎖し支那人にして日本人の間諜の手先となつて居るものを逮捕すべしと序に支那人が支那を亡ぼし塗炭に苦しむの覺悟を以てソヴエツト聯邦の屬國たるの決意あるべしとまで誘導しないのか心臓のなきソ聯民にも幾分の遠慮があるか種々の揣摩臆説が傳へられた寺内壽一大將、松井石根大將は既に前者は北支那に於て陸軍部隊の最高指揮官、後者は上海に於て陸軍部隊の最高指揮官として活躍せられたつゝありと公表せられ迷霧はれて秋晴の空を仰ぐの感が生じた。

連戦連敗日夜我が荒鷺に見舞はれ戦々兢兢身の保全を圖りつゝも尙盲目外交に一抹の望を懷きつゝある蔣介石、汪兆銘、何應欽、馮玉祥、白崇禧、宋子文、顧維鈞等の要人達の心臓に米國大統領ルーズヴェルト

の日支兩國向け武器禁輸の指令はどう響いたか、我第三艦隊司令長官長谷川提督の南京大爆撃に關する豫告警戒通知は支那首腦部の目にどう映じたか、何時まで赤色レンズにこびりついて居るのか。

支那側が對外虚構宣傳に狂奔し爲めに我帝國の眞意が徹底を缺き事實が歪曲されて居るに鑑み石井子爵、鈴木文治氏、深井英五氏、伍堂和雄氏を歐米各國に特派することとなつたと此特派使節の諸氏の重任は蔡すに餘りがある乞ふ努力せられよ。

本會の創立者顧問の故澁澤榮一翁が九十二歳を以て物故(昭和六年十一月十五日)せられてから早くも滿六年の歲月は流れた、埼玉縣大里郡八基村血洗島の偉人を偲ばずには居られない。(洗)

定價 一部 五十錢  
一ケ年分 金 六圓

發行所 東京市麴町區外櫻田町一番地内務省內  
社 團 道 路 改 良 會  
法 人 電話銀座(5)四二七  
東京市世田ヶ谷區代田壺丁目七八〇番

發行兼編輯者 小 島 效

印刷所 東京市小石川區諏訪町五六  
常 馨 印 刷 所

印刷者 奈 良 直 一